

県美プレミアム

2015年3月21日(土・祝)～7月5日(日)

イン・マイ・ルーム／オン・ザ・ロード

IN MY ROOM / ON THE ROAD

—私の部屋、あるいは路上にて—



1. 島州一 《カーテン》 1975年 シルクスクリーン・布



2. 篠原有司男 《モーターサイクル・ママ》 1971年 山村コレクション ポール紙

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| パート1 部屋からはじまる | 【展示室1南】 |
| パート2 山を眺める、あるいは疾走 | 【展示室1北】 |
| パート3 部屋の中の風と雲と虹、そして暗闇 | 【展示室2】 |
| パート4 日本の家屋／旅路の風景 | 【展示室3】 |
| パート5 彫刻、そっと目をとじて | 【展示室5】 |
| パート6 地をみつめて、そして犬 | 【展示室4】 |
| パート7 作者が、本当にいるところ | 【小磯良平記念室】 【金山平三記念室】 |
| パート8 密室の中の私、風景の中の私 | 【展示室6】 |

県美プレミアム

収蔵品によるテーマ展

イン・マイ・ルーム／オン・ザ・ロード

IN MY ROOM / ON THE ROAD —私の部屋、あるいは路上にて—

開催趣旨

平成27年度第1期目となる今期の常設展示室では、「IN MY ROOM(私の部屋で)」と「ON THE ROAD(路上にて)」の2つのキーワードのもとに選定した作品を展示します。

「室内」と「路上(通り)」は、芸術の近代性を語るに不可欠な用語ではありますが、ここでは作品への肩肘を張らないアプローチを促す便宜上の言葉として扱いたいと思います。ご覧いただく方々には、「室内／路上」における私たちの立ち位置を端的に言い表す「当事者／傍観者」の両立場を行き来しつつ、企画者の思惑をこえて独自に展示室で作品に出会い、作品が生まれる時間に思いをはせていただければ幸いです。

会期等

2015年3月21日(土・祝)～7月5日(日)

休館日:月曜日[5月4日(月・祝)開館、5月7日(木)休館]

開館時間:午前10時～午後6時

※特別展開催中の金・土曜日は夜間開館(午後8時まで)

※入場は閉館の30分前まで

パート1とパート8の一部作品を展示替します。

前期:3月21日(土・祝)～5月17日(日)

後期:5月19日(火)～7月5日(日)

会場:兵庫県立美術館 常設展示室(1・2階)

主催:兵庫県立美術館

兵庫県立美術館は、前身の近代美術館時代から数えて約45年にわたり収集活動を続けてきました。現在9,000点を超える作品を収蔵しており、それらはこれまでの収集方針を反映して、国内外の近代彫刻と版画、日本近代の名作、兵庫ゆかりの作品、関西の現代美術に大別されるとしても、内容は実に多岐にわたり、一瞥しただけではその総体をとらえきれません。そこで、当館では、1年を3期に区切り、個々に展示のテーマを設けることによって、横断的にコレクションを紹介し、変化ある常設展示室の演出を心がけています。

パート1	部屋からはじまる	【展示室1南】
パート2	山を眺める、あるいは疾走	【展示室1北】
パート3	部屋の中の風と雲と虹、そして暗闇	【展示室2】
パート4	日本の家屋／旅路の風景	【展示室3】
パート5	彫刻、そっと目をして	【展示室5】
パート6	地をみつめて、そして犬	【展示室4】
パート7	作者が、本当にいるところ	【小磯良平記念室】 【金山平三記念室】
パート8	密室の中の私、風景の中の私	【展示室6】

観覧料

観覧料	当日	団体	セット
一般	510円	410円	306円
大学生	410円	330円	246円
高校生	260円	210円	156円
65才以上	255円	205円	153円
中学生	無料		

団体料金……20名以上の料金

セット料金……特別展とのセット割引料金

※障がいのある方とその介護の方1名は各観覧料金の半額(65歳以上は除く)

展覧会構成

パート1 部屋からはじまる

展示室1南

私の部屋に私がいることから始まる作品があります。私とは何か、「いる／ある」とはいかなることか、私と空間、そして時間の関係はどうなっているのか、そもそも私は部屋に入ろうとしているのか、部屋から出ようとしているのか？いくつもの問いの果てに作品が生まれ、私たちに自由な動きと別なる空間、広がる思考を提示します。

出品作家: 荒川修作、小清水漸、藤本由紀夫ほか



3. 小清水漸 《作業台-曲水-》1983年 桂、水

パート2 山を眺める、あるいは疾走

展示室1北

窓に目をやり遠くを眺め、そしてついに外へ飛び出る。その見晴かしたところ、あるいは飛び出たところに身をおくことから始まる作品があります。作者が向ける視線の行き先と、作者によって生きられた身体が作品に強くあらわれ、作品が生まれたその場その時間が臨場感をもって迫ってきます。

出品作家: 篠原有司男、白髪一雄、元永定正ほか



4. 白髪一雄 《黄帝》1963年
油彩・布



5. 元永定正 《ヘランヘラン》
1975年 アクリル・布、板

パート3 部屋の中の風と雲と虹、そして暗闇

展示室2

私以外の誰かがいる、あるいはいない部屋に風が通り抜けます。すると雲と虹があらわれますが、どこかに暗闇がひそんでもいます。そこでは息ができるようであり、できないようでもある。めくるめく快楽と孤独が同居するそんな部屋の中で、私たちは決定的な「他者」の存在に気付くのです。

出品作家: 巖嘯、池田満寿夫、黒崎彰、吉原英雄



6. 黒崎彰 《闇のコンポジションA》1970年 木版・紙

パート4 日本の家屋／旅路の風景

展示室3

日本家屋の縁側や狭い六畳の間、頭に天井がつきそうな2階の居室が、日本の油絵に独自なるものをもたらしたと信じたい。旅路の果てに出会う人々の姿と風景への憧れと懐かしさが日本の油絵に神妙なるものをもたらしたと信じたい。受難としての日本の油絵の一種けったいな味わい。

出品作家: 飯田操朗、小出柁重、佐伯祐三ほか



7. 飯田操朗 《室内》1933年 油彩・布

パート5 彫刻、そっと目をとじて

展示室5

コートポケットに手をつっこみ、バッグを肩にかけて歩く人々の姿、あらわな胸で戸口に立つ女、頭を傾け目をふせる胴部と臀部だけの女、碑である台にのり正面を向く両腕と頭髪のない男など、人の姿のいくつかの彫刻作品は、形や面を目でとらえる楽しみ以上に、私たちが内省に向かわせます。

出品作家: ジョージ・シーガル、ルイーズ・ネヴェルスンほか



8. ヴィルヘルム・レームブルック 《女性のトルソ》 1910-14年 ブロンズ

パート6 地をみつめて、そして犬

展示室4

目線を低くして地面から目をはなすことなく、何事をもこの地続きにあるものとしてとらえること。それは、立った姿勢で視線を地面と平行に満遍に四周に投げることとは違います(もちろん見上げることも違います)。前者の視点をもつ作者は、全てを等価に見出し、対象の最も深いところに驚くべき正確さで達します。この調子でいけば、地面の上にある空気や犬のことすらもが本当に見えてくるのです。

出品作家: 安井仲治、藪内佐斗司、若林奮ほか



9. 藪内佐斗司 《犬モ歩ケ》 1989年 木

パート7 作者が、本当にいるところ

小磯良平記念室

自身とモデルが親和的に身を浸す空間こそが小磯良平の人物画の大前提です。小磯良平は生涯にいくつか持っていたアトリエや、教鞭をとった大学の研究室や教室、そして時に自宅の居間で制作しました。広さの感覚や光の調子、窓外に見える光景は部屋ごとに異なり、そうした差異そのものが小磯の描く意欲を刺激したのです。



10. 小磯良平 《窓(下図)》 1958年 コンテ、グワッシュ・紙

金山平三記念室

金山平三が画架をたてたのは、風光明媚で見どころのある名所ではありません。地形のつながりが読みとりにくいところや奥行きを感じる意外性のあるところを、金山は自身の立ち位置に選び、それらをあたかも広角あるいは望遠のレンズで見るように眺めて描くことによって、見る視線をより長く画面にとどめようとしたのです。



11. 金山平三 《無題(花の咲く家)》 1914年頃 油彩・布

パート8 密室の中の私、風景の中の私

展示室6

日本画は、顔料や膠といった絵の材料とそれを扱う技法において、あるいは何を描くかというモチーフにおいて、伝統や古来の表現と結びついていると思われています。そして、それゆえ、日本画の世界では近代的な芸術の主題である「私」が忘れられる傾向があります。そんな中であって、村上華岳と東山魁夷が強烈に願っていたのは、自身の絵において「私」を追求することでした。ふたりにとって、人生と制作はまさしく密室の中の祈りであり、風景の中の永遠の旅なのでした。

出品作家:村上華岳、水越松南、東山魁夷ほか



12. 東山魁夷 版画集『古き町にて』より《地図》 1964年 リトグラフ・紙

関連事業

学芸員によるギャラリートーク

【1階展示室】3月29日(日)、5月10日(日)

【2階展示室】4月26日(日)、6月7日(日)

いずれも午後4時～(約40分)

参加無料・要観覧券(エントランスに集合)

こどものイベント「美術館探検2015」

7月4日(土) 午後1時30分～3時30分

アトリエ2にて 定員30名

要参加費・要事前申込(こどものイベント係 TEL:078-262-0908)

ミュージアム・ボランティアによるガイドツアー

会期中の金・土・日 午後1時～(約45分)

エントランスに集合 参加無料・要観覧券

同時開催の展覧会

阪神・淡路大震災20年展

フェルディナント・ホドラー展

1月24日(土)～4月5日(日)

会場:兵庫県立美術館 企画展示室

ガウディ×井上雄彦 ーシンクロする創造の源泉ー

3月21日(土・祝)～5月24日(日)

会場:兵庫県立美術館 ギャラリー棟3階

堀文子 一所不住・旅展

4月18日(土)～6月7日(日)

会場:兵庫県立美術館 企画展示室

舟越桂展

6月27日(土)～8月30日(日)

会場:兵庫県立美術館 企画展示室

横尾忠則現代美術館での同時開催*

阪神・淡路大震災20年展

横尾忠則 大涅槃展

1月24日(土)～3月29日(日)

横尾忠則展 カット&ペースト ～切った貼ったの大立ち回り。

4月18日(土)～7月20日(月・祝)

※特別展又は、県美プレミアムのチケット(半券可)のご提示で、
 団体割引料金でご覧いただけます。

(詳細はホームページなどでご確認ください)

広報用画像について

このプレスリリースに掲載されている画像データをプレス掲載用にご用意しております。別紙の申込書をご使用ください。

お問い合わせ先

兵庫県立美術館

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1

代表 TEL: 078-262-0901 FAX: 078-262-0903

「IN MY ROOM / ON THE ROAD

—私の部屋、あるいは路上にて—展に関すること

担当学芸員: 西田桐子・河田亜也子

TEL: 078-262-0909 FAX: 078-262-0913

取材・写真提供に関すること

営業・広報グループ

TEL: 078-262-0905 FAX: 078-262-0903

交通案内

阪神岩屋駅（兵庫県立美術館前）から南に徒歩約8分

JR神戸線灘駅南口から南に徒歩約10分

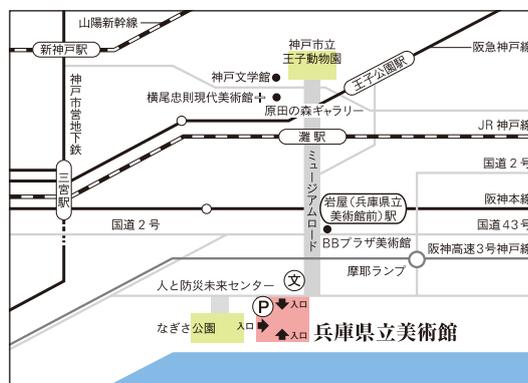
阪急神戸線王子公園駅西口から南西に徒歩約20分

J R三ノ宮駅南から神戸市バス（29・101系統）・阪神バスにて約15分 HAT神戸方面行き「県立美術館前」下車すぐ

地下駐車場: 乗用車80台収容・有料

*ご来館はなるべく電車・バスをご利用ください

*団体バスでお越しの場合は、バス待機所の予約をお願いします



広報画像申込書

営業・広報グループ 宛 FAX (078) 262-0903

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1 電話 (078) 262-0905 (直通)

ご希望の画像の番号に○をつけてください。後日データ (.jpg) をお送りいたします。

番号	作家名・作品名・制作年 など
1	島州一 《カーテン》 1975年
2	篠原有司男 《モーターサイクル・ママ》 1971年 山村コレクション
3	小清水漸 《作業台—曲水—》 1983年
4	白髪一雄 《黄帝》 1963年
5	元永定正 《ヘランヘラン》 1975年
6	黒崎彰 《闇のコンポジション A》 1970年
7	飯田操朗 《室内》 1933年
8	ヴィルヘルム・レームブルック 《女性のトルソ》 1910-14年
9	籾内佐斗司 《犬モ歩ケバ》 1989年
10	小磯良平 《窓(下図)》 1958年
11	金山平三 《無題(花の咲く家)》 1914年頃
12	東山魁夷 版画集『古き町にて』より《地図》 1964年

※上記画像を媒体掲載される際には、記載の作家名・作品名・制作年などを必ず入れてください。

※画像データ使用は、本展覧会の紹介用のみとさせていただきます。それ以外での使用はできません。(会期終了まで)

※トリミングおよび文字や他のイメージを重ねることはできません。

貴社名			
媒体名	新聞・雑誌・ミニコミ 『 TV・ラジオ・インターネット 』		
ご担当者名			
ご住所	〒		
電話番号		FAX	
メールアドレス	@		
URL			
掲載・放送予定日		画像到着希望日	
読者・視聴者プレゼント用招待券(最大5組10名まで本展を媒体でご紹介いただける場合に限り)	組		名分希望

※本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが、掲載誌・紙または記録媒体(VTR/DVD)、URLなどを、上記営業・広報宛にお送りくださいますようお願いいたします。

※展覧会場の取材、撮影をご希望の場合は、上記までご連絡ください。事前にご連絡のない取材・撮影はお断りいたします。